

学生大使 実施報告書

氏名：石橋杏那

学部・学科（コース）・学年：人文社会科学部 人文社会科学科 人間文化コース 1年

派遣先大学：ベトナム国家農業大学

派遣期間：2月21日～3月6日

1 日本語教室での活動内容

日本語教室は平日の18時から19時半まで行われ、1対1または2対1で日本語を教えることになった。日本語を勉強している日向クラブでは様々な年齢の学生や30代の男性もいた。私は最初の授業でその男性の子どもさんに日本語を教えた。アンちゃんという小学3年生の女の子でひらがなが読める程度で日本語の単語はほとんど知らない子だった。まずはひらがなの読み書きを教えてほしいとその子のお父さんから頼まれたため、順にひらがなを読み上げてアンちゃんが復唱するというのを何度も繰り返した。その後ひらがなをお手本をみながら書かせて苦手な字はホワイトボードに大きく書いて見せた。日本人以外の小学生に本格的に日本語を教えたのは初めてだったのでどう教えるべきか戸惑った。うまく字が書けたときや全部ひらがなが読めたとき笑顔ですごいねとグッドサインをして褒めるようにした。ひらがなを読んだり書いたりしているうちに集中力がなくなってきたのか、すこし退屈そうな表情をみせたため日本語を楽しく学べるように教える方向を変えた。アンちゃんの持っていた鉛筆や消しゴムを指して、「これはえ・ん・ぴ・つ。これはけ・し・ご・む。」と教えると知っているという顔をしてうなずいて復唱してくれた。その後も身近にあるものを日本語で教えた。やはり教科書で単に言葉を学ぶよりも実際の物や写真を使って教える方が興味を示してくれるのだなと思った。教えた後に「ありがとうございました」と日本語でとびきりの笑顔で伝えてくれたことは驚いたと同時にとても嬉しい気持ちになった。その後の日本語クラスも、アンちゃんが私を見つけて隣の席に座ってくれるので毎回私が教えることになった。初めは読んで書く練習をして、写真を見せながら教えるというルーティンを毎日繰り返した。最初の授業で教えた鉛筆と消しゴムは覚えていたらしく、鉛筆や消しゴムを指して「これはなんでしょう」というと「えんぴつ！消しゴム！」とにこにこしていつてくれて教えがいがあった。バッチャン村に行ったときに、教えてくれたお礼にと貯金箱をくれた。私が教えたのはみんなとは違い小学生だったが、ほとんど日本語が通じなくても表情やジェスチャーでコミュニケーションをとれることを改めて感じた。

2 日本語教室以外での交流活動

毎日8時にホテルのロビーに集合して夜ごはんを食べて帰るまで、ずっとベトナム人学生が私たちについてくれた。アオザイを着て大学周辺を歩いてたくさん写真を撮ってもらったり、ハノイ旧市街や最近できたショッピングモールに連れて行ったりしてもらった。印象的だっ

【学生大使 実施報告書】

たのは私たちがベトナム限定のタンブラーが欲しいからスタバに行きたいというと、スタバはとても高いよと教えてもらったことだ。確かにベトナムでの一食当たりの金額は日本円で約 200 円から 270 円であるためドリンク一杯で 600 から 700 円ほどするスタバは 2 食分か 3 食分であり現地の人からするととても高級になることを知った。また一部の山大生とベトナム人学生とカラオケにも行った。ベトナムの曲を初めて聞いたのでとても興味深かった。日本の曲も多くあり、ドラえもんやアンジェラアキの手紙を知っているベトナム人学生が多く皆で歌ってとても盛り上がった。ベトナムでまさか日本の曲をカラオケで歌うとは思ってもみなかったので貴重な体験ができた。農業大学の英語の授業にも参加した。私たちは日本の文化を紹介するパワーポイントを作り、同じグループになったベトナム人に発表した。彼らにとって日本人がとても珍しかったのかとても食い気味に話しかけてくれた。中には英語を流暢に話す学生もおり、テイラー・スウィフトが好きだと伝えると互いに何の曲が好きか伝え合ってとても盛り上がった。私の実力不足で英語が聞き取れずスムーズに会話が進まなかったこともあったので、もっと英語を話せばよかったと後悔した。

3 参加目標への達成度と努力したこと

私はベトナム人学生に積極的に話しかけて友達をつくることを目標だったので、自分から話しかけるように心がけた。できるだけ簡単な日本語を使うように心がけ、伝わらない部分はグーグル翻訳に頼り何とかコミュニケーションを図った。相手が日本の何に興味があるかを探って、その興味に従って会話をした。私たち世代の日本人がよく使う言葉を教えてほしいといわれて、「やばい」や「エモい」などを教えると早速使ってくれて皆で大笑いしたこともあった。帰国後も何人かとメールを取り合う友人ができたのでおおむね目標を達成できたと思う。しかし、帰国する 1 週間前から体調が芳しくなくベトナム人学生と話す気力がなくなってしまう日本人とばかり話してしまったことを後悔した。

4 プログラムに参加した感想

ベトナムに行って衝撃を受けたことは 3 つある。1 つ目は滞在したベトナムのホテルには浴槽がなくシャワーヘッドとトイレ、洗面器がすべて一緒になったバスルームだったことだ。ベトナムの一般家庭ではそれが普通でお金持ちの家庭には日本みたいなお風呂があるということを知った。日本ではほとんどの家庭がお風呂とトイレと洗面台が仕切られており浴槽もあるので、貧富の差と聞いていいのかわからないが悲しくなった。2 つ目は、トイレをするときにトイレットペーパーを流さず脇にあるゴミ箱に捨てるということだ。ベトナムのトイレットペーパーは分厚く流れないため捨てるのが一般的だということを知った。3 つ目は町には多くのバイクが走っており、自分がいることを知らせるためにクラクションをよく鳴らすということだ。毎日クラクションの音に驚いていたことが今では懐かしい。歩行者優先ではないので何度も命の危機を感じた。しかし道路を渡るときは、必ずベトナム人学生が誘導してくれたので安心できた。このようにベトナムの生活や文化を肌で感じることでありとても濃い 2 週間だった。また全く異なる環境で育ったベトナム人と英語や日本語を通してコミュニケーションが図れたことやゲームやスポーツを通じてたくさん笑いあったこ

【学生大使 実施報告書】

とは忘れられない経験になった。離れたベトナムでも日本のことが大好きな人がこんなにたくさんいるのだと実感し誇りに思った。

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

私は将来海外の人とも多くかかわるような職業に就きたいと考えている。日本語教師になることも視野にいれているので、今回のプログラムはとても貴重な体験となった。ベトナムに行ってから日本と比較してネガティブになることもあったが、「ここは日本じゃない。比べてはいけないんだ」と自分に言い聞かせていたらすぐに慣れることができた。

今後も真の異文化理解を求めて勉強していきたいと考えている。

6 現地での活動写真

メガワールド



最終日の誕生日パーティー



【学生大使 実施報告書】

日本語クラス



カラオケ

